

センターのパソコンで使えるソフトウェアについて

総合情報処理センター

池永 全志

ike@cc.nagasaki-u.ac.jp

1 はじめに

総合情報処理センターでは昨年の1月から、端末室で使用できる計算機として Windows95 の動作するパソコンを提供しています。現在、講義以外の時間で自由にパソコンを利用できるのは、総合情報処理センターの第一端末室、第二端末室、入出力室、付属図書館本館、付属図書館坂本分館、付属図書館片淵分館の六ヶ所です。これらの部屋に置かれたパソコンには、市販のもの、フリーのものを含めた多くのソフトウェアがインストールされています。

今回はこれらソフトウェアのうち、フリーのものを中心に使い方を簡単に紹介したいと思います。パソコンは、ユーザIDが無くても端末の前に座って電源を入れれば誰でも使うことができますので、今回の解説も誰にでも通用する内容にしたいところですが、ネットワーク関連のソフトについては、センタの発行するユーザID(研究用/教育用/学生用)を取得している人向けの内容になっていることを御了承下さい。

2 使用できるソフトウェアの一覧

センターの設置しているパソコンでは、次の表のようなアプリケーションソフトウェアを使用することができます。

表 1: センターのパソコンで使用できるソフトウェア一覧

種別	名称	備考
ワープロ	Microsoft Word	
表計算	Microsoft Excel	
プレゼンテーション	Microsoft PowerPoint	
タイプ練習	TYPE Quick	使用時にフロッピーディスクが必要
辞書	学研総合電子辞書	国語、漢和、和英、英和、の全てを含む
プログラミング	Microsoft Visual BASIC	
	Microsoft Visual C++	
	LSI-C 86 (試食版)	C 言語 (コマンドラインコンパイラ)
電子メール	WinYAT32	使用には、ユーザIDが必要
X 端末ソフト	PC-Xware	使用には、ユーザIDが必要
Telnet ソフト	TeraTerm Pro	使用には、ユーザIDが必要
WWW ブラウザ	Netscape Navigator	
FTP クライアント	Ws FTP	ファイル転送
画像表示	Irfan View	画像表示、変換など
画像処理	Dibas32	画像レタッチ、加工など

3 ネットワーク関連のソフトウェア

まずはじめに、ネットワーク関連のソフトウェアを紹介します。ネットワーク関連のソフトウェアのなかには Netscape のように、下手な解説をするよりも実際に使って覚えた方が早そうなものもありますので、ここでは全てのソフトについて説明するのではなく、電子メールと電子ニュース用のソフトである“WinYAT”と、ファイル転送用のソフトである“Ws FTP”の二つだけを取り上げることにします。

3.1 電子メールを使う (WinYAT)

まず、WinYAT の使い方に入る前に、電子メールを使う大前提として、センタの計算機を利用するためのユーザ ID を取得する必要があります。センタの共同利用計算機システムの ID には、研究用 ID、教育用 ID、学生用 ID の三種類がありますので、取得できる条件と利用目的に応じて適切な利用 ID を申請して下さい^{†1}。

さて、それでは WinYAT の使い方の説明に入ります。

3.1.1 起動とサーバへの接続 (ログイン)

WinYAT を起動するには、Windows のデスクトップにある“WinYAT32”というアイコンをダブルクリックします。または、スタートメニューから

[スタート] → [プログラム] → [WinYAT32 Ver.3.0] → [WinYAT32]

とたどっても起動できます。

WinYAT が起動すると、次のようなウィンドウが現れます。

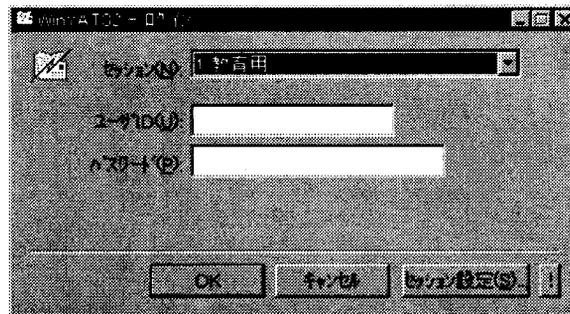


図 1: WinYAT のログイン画面

ここで必要な情報を入力して [OK] をクリックするとサーバへ接続します。必要な情報というのは、次の三つです。

1. セッション = どのサーバに接続するかを選択する。
 - “1. 教育用” = 研究用 ID, 教育用 ID のユーザ向け
 - “2. 学生用” = 学生用 ID のユーザ向け
2. ユーザ ID = ユーザ ID を入力する
3. パスワード = パスワードを入力する (入力した文字は、画面に * 印で表示される)

もしもこれらの情報を間違えて入力して [OK] を押すと、画面にエラーメッセージを表示して図 1 のウィンドウに戻りますので、そこで正しい情報の入力からやりなおして下さい。

三つとも正しい情報が入力されていれば、サーバに接続されます。

^{†1} 詳しくはセンタへお問い合わせ下さい

3.1.2 電子メールを送る

サーバに接続されたら、つぎのようなウィンドウが出ます。これが、WinYATの基本画面です。

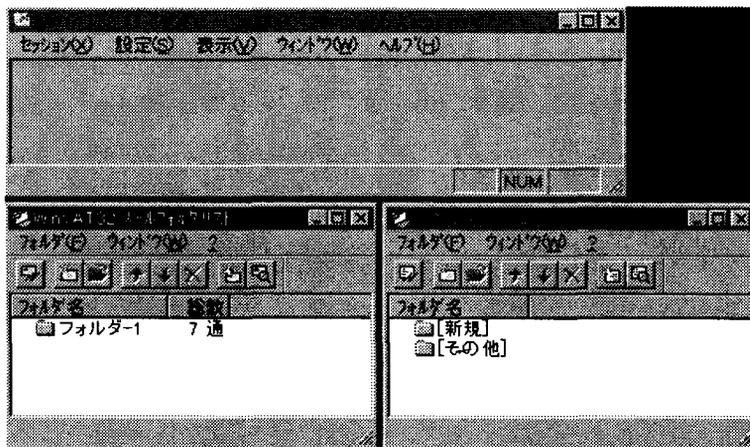


図 2: WinYATの基本画面

試しに、自分宛てにメールを出してみましょう。新規にメールを送る場合は、“WinYAT32 メールフォルダリスト”と書かれたウィンドウで、右から二番目のアイコンをクリックするか、メニューから

[ウィンドウ] → [新しいウィンドウを開く] → [メール新規]

を選択するか、どちらかの操作をすることで、新規にメールを作成するウィンドウが開きます。

新規にメールを作成するウィンドウが開いたら、最低限、次の二つの情報を入力します。

- 宛先 (To) = メールを送りたい相手のメールアドレスを書く。
- 標題 (Subject) = このメールの標題を書く。

そしてこれらの情報を入力したら、その下の広いスペースにメールの本文を書いていきます。本文の最後には、署名を付けるようにしましょう。次の図3は、s000004z というIDの人が、自分自身にテストメールを出そうとしている例です。

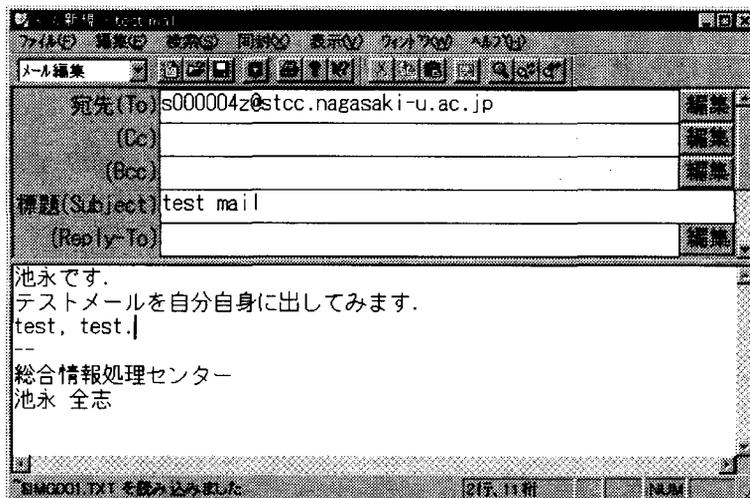


図 3: メール作成中の画面

本文を書き終って、署名も付けたら、もう一度宛先のメールアドレスが間違っていないかを調べて、正しければメールを送ります。書いたメールを送るには、赤いポストマークのアイコンをクリックするか、

[ファイル] → [送信]

のメニューを選びます。すると、次の順番でウィンドウが出てきて確認を求めてくるので、どちらの方でも「はい」をクリックすると、メールが送信されます。

1. “編集集中のメールを送信しますか？” → はい
2. “送信できました。編集したメールを破棄しますか？” → はい

3.1.3 電子メールを読む

それでは、自分宛てに送ったメールを受信して読んでみましょう。自分宛てにメールが届いているかどうかチェックするには、“WinYAT32 メールフォルダリスト”というウィンドウの一番左端のアイコンをクリックするか、“WinYAT32 メインウィンドウ”というウィンドウで次のメニューを選択します。

[セッション] → [新着メールの検査]

すると、自分宛てにメールが届いていれば(新着メールがあれば)それを取り込んで、“フォルダ-1”に入れてくれます。

この“フォルダ-1”というアイコンをダブルクリックすると、“メールリーダー フォルダ-1”というウィンドウが開き、新着メールの一覧が表示されます。そこで、読みたいメールをダブルクリックすれば自分宛てに届いたメールが表示されます。

3.1.4 電子メールの返事を書く

自分宛てに届いたメールに返事を書きたい場合は、メールを読んでいる状態で、“WinYAT32 メールリーダー”というウィンドウから次のメニューを選択します。

[ウィンドウ] → [新しいウィンドウを開く] → [メール返信 (Reply)]

3.1.5 電子メールをフロッピーディスクへ保存

自分宛てに届いたメールは、通常はサーバ側にたまっています。これを自分の手もとに保存しておきたい場合は、まず、メール保存用のフロッピーディスクを用意して下さい。

フロッピーディスクの用意ができたなら、通常通りメールを読む動作を行います。保存したいメールが画面上に表示されている状態のときに、“WinYAT32 メールリーダー”というウィンドウの、

[フォルダ] → [ファイルへ保存]

というメニューを選択します。すると、“ファイルへ保存”というウィンドウが開きますので、

1. [保存する場所] の欄をクリックして、“3.5 インチ FD”を選択。
2. [ファイル名(N)] の欄に保存したいメールにつける名前、“ファイル名.txt”を入力。
3. [保存(S)] ボタンをクリック

これでメールをフロッピーディスクに“ファイル名.txt”という名前で保存することができます。ファイル名をつけるときに必ず、“*****.txt”という名前にするのを忘れないようにして下さい。

3.1.6 WinYATの終了

WinYATを終了するには、“WinYAT32 メインウィンドウ”から次のように選択して下さい。

[セッション] → [WinYAT32の終了(X)]

3.2 サーバのファイルをパソコンへ (Ws FTP)

研究用サーバ、教育用サーバ、学生用サーバなど、自分が普段使っている各サーバにあるファイルをパソコンに持ってきたり、自分の手元のフロッピーディスクに保存したり、または、フロッピーディスクにあるファイルをサーバの自分のホームディレクトリへ置きたいといった場合には、FTPという仕組みを使います。このためのツールとして、センタのパソコンには“Ws FTP”が入っています。

3.2.1 Ws FTP の起動とサーバへの接続

Ws FTP を起動するには、Windows のデスクトップにある“FTP”というアイコンをダブルクリックします。または、スタートメニューから

[スタート] → [プログラム] → [Ws_ftp] → [Ws_FTP95_LE]

とたどっても起動できます。

Ws FTP が起動すると、次の図 4 のようなウィンドウが現れます。

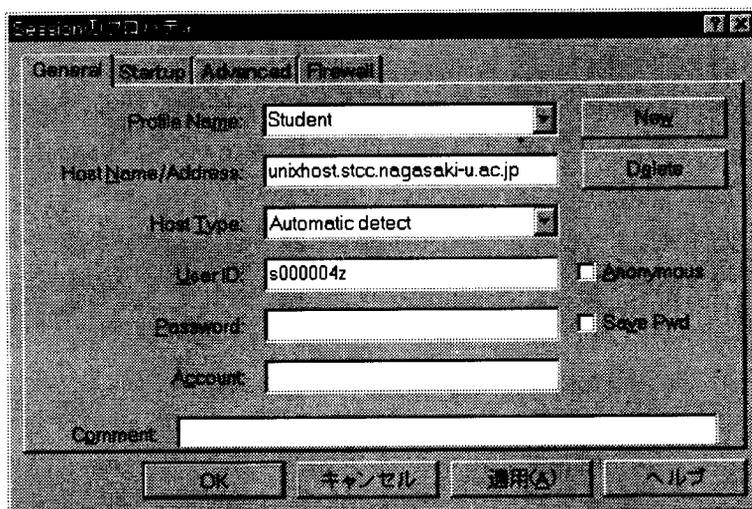


図 4: Ws FTP のログイン画面

ここで必要な情報を入力して [OK] をクリックするとサーバへ接続します。必要な情報というのは、次の三つです。

1. Profile Name = どのサーバに接続するかを選択する

- 研究用 ID の場合 = “Research” を選択
- 教育用 ID の場合 = “Education” を選択
- 学生用 ID の場合 = “Student” を選択

2. User ID = ユーザ ID を入力する

3. Password = パスワードを入力する (入力した文字は、画面に * 印で表示される)

もしもこれらの情報を間違えて入力して [OK] を押すと、画面の下の方に赤い文字でエラーメッセージを表示してウィンドウの右半分“Remote System”の部分が真っ白のままになります。この場合は、ウィンドウの左下の“Connect”というボタンを押し、そこで正しい情報の入力からやりなおして下さい。

三つとも正しい情報が入力されていれば、サーバに接続され、ウィンドウの右半分 “Remote System” の部分にサーバ側のディレクトリ名、ファイル名が表示されます。

3.2.2 ファイルを転送する前に

実際にファイル転送を行う前に、ファイルには「アスキーファイル (ASCII)」と「バイナリファイル (Binary)」の二つの種類があるということを覚えて下さい。簡単に言うと次のようになります。

- アスキーファイル：

テキストファイルともいう。サーバ上の “mule” や Windows95 の “メモ帳” などのエディタを用いて編集できるファイル。電子メールのファイルや、HTML ファイル、PostScript ファイル、Windows95 での ****.txt というファイルなど。

- バイナリファイル：

アスキーファイルでないもの全て。コンパイルした後の実行プログラムや、GIF、JPEG といった画像ファイル、Word、一太郎、Excel、PowerPoint などの各種アプリケーションで作成したユーザデータなど。

FTP では、アスキーファイルかバイナリファイルかによって動作が変わってくるため、転送しようとしているファイルがどちらのタイプのファイルなのかを把握することが必要です。

3.2.3 ファイルを転送する

Ws FTP でサーバに接続すると、画面の左半分に “Local System” つまり、パソコン側のカレントディレクトリの内容が表示され、画面の右半分に “Remote System” つまり、サーバ側のホームディレクトリの内容が表示されます (図 5)。

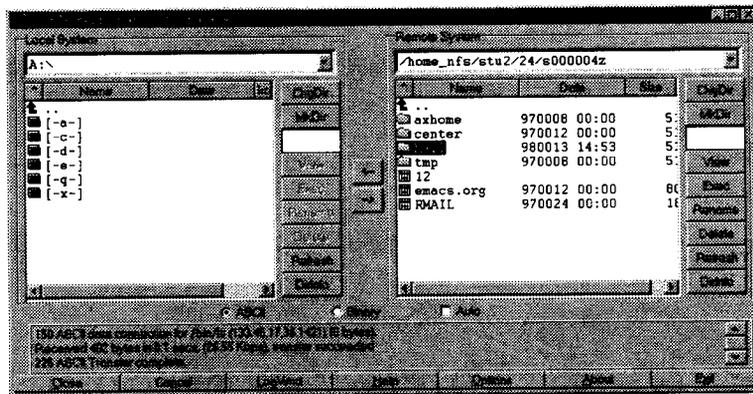


図 5: サーバ接続後の画面

パソコンからサーバにファイルを転送する場合も、サーバからパソコンにファイルを転送する場合も基本的な手順は同じで、次のようになります。

1. 取ってきたファイルをどこに入れるかを決める。

パソコンに取ってくる場合は、必ず [-a-] ドライブ (フロッピーディスク) を選択する。

2. どのファイル (ディレクトリでもよい) を取ってくるかを選ぶ。

3. ファイルのタイプを選ぶ

4. 送りたい方向に合った矢印ボタン (←)か(→) をクリック。

例えば、サーバにある電子メールのファイルを全てフロッピーディスクに保存したい場合には、次のように操作します。

1. 左側 (Local System) のファイル一覧が表示されているところをどんだんにたどっていき、一番下にドライブ一覧があるので、そこからフロッピーディスクの [-a-] ドライブを選んでダブルクリック。
2. 右側 (Remote System) のファイル一覧から、“Mail” というディレクトリを選んでクリック (色を反転させる)。
3. 画面のやや下側にある、“ASCII, Binary, Auto” の表示から“ASCII” にチェック (●:黒丸) をつける。
(電子メールはアスキーファイルだから)
4. 右側 (Remote System) から左側 (Local System) 向きの矢印ボタン  をクリック。

【FTP でメールを転送した場合の注意事項！】

サーバに置いてある電子メールを FTP で取ってきてフロッピーに保存した場合には、フロッピーに入っている電子メールは、そのままでは Windows95 のメモ帳などのエディタで読むことはできません。ここでは詳しく説明しませんが、これが「漢字コード問題」です。それでは、フロッピーに保存したメールファイルをどのようにして読めばよいかというと、Netscape を利用して読んで下さい。

仮に、フロッピーディスクの中の“Mail” というディレクトリの中の“inbox” というディレクトリにある“1” 番のメールを表示させたい場合は次のように操作します。

1. [マイコンピュータ] → [3.5 インチ FD (A:)] → [Mail] → [inbox]
とダブルクリックしていき、“1” というファイルを見つける。
2. “1” のファイルをドラッグしてデスクトップにある“Netscape” のアイコンの上に重ね、“Netscape” のアイコンの色が変わったところで手を離す。
3. “Netscape” が起動し、“1” 番のメールが表示される。

さらに次のメールを読みたい場合は、今起動した“Netscape” の上にメールファイルをドラッグしていけば読むことができます。

4 画像処理関連のソフトウェア

センタのパソコンには、画像表示用のソフトとして“IrfanView32”，画像処理用のソフトとして“Dibas” というソフトをインストールしてあります。どちらもフリーソフトウェアです。ここでは、画像表示用のソフトである“IrfanView” を特に取り上げて紹介します。

4.1 画像の表示ソフト (IrfanView)

センタのパソコンでは、GIF, JPEG ファイルを見ようとする (ファイルをダブルクリックすると)、自動的に IrfanView が起動するように設定してあります。また、IrfanView を先に起動して、そこから画像ファイルを指定して開くこともできます。

1. [スタート] → [プログラム] → [画像 Viewer] → [IrfanView]
2. IrfanView が起動したら
[File] → [Open]
とした後、ファイルを指定して、[開く (O)] ボタンをクリック。

IrfanView は、次のような様々な機能を持っています。

- 画像を保存する：
開いている画像を違う形式で保存でき、画像変換ツールとして利用可能。
(JPEG ファイルを GIF 形式に変換するなど)
[File] → [Save as]
- 画像の情報を調べる：
画像の圧縮形式、縦横の Pixel サイズ、ファイルサイズなど
[File] → [Image info]
- 開いている画像を壁紙に設定する：
[Options] → [Set as Wallpaper]
- 画像の大きさを変更する：[Options] → [Resize image]
- 画像を 256 色に変換：
[Options] → [Convert to 256 Colors]
- カラー画像をグレースケールに変換：
[Options] → [Convert to Greyscale]
- ネガポジ反転：
[Options] → [Negative]
- 明るさ、コントラストの変更：
[Options] → [Brightness/Contrast]
- フルスクリーン表示：
[View] → [Full screen]
- ベストフィット表示：
デスクトップの縦幅または横幅にちょうど合うようにサイズを変更して表示
[View] → [Best Fit to desktop]
- 左右回転：
[View] → [Rotate Left], [View] → [Rotate Right]
- 上下、左右反転：
[View] → [Vertical Flip], [View] → [Horizontal Flip]
- ズームイン、アウト：
[View] → [Zoom In], [View] → [Zoom Out]

5 おわりに

今回は、センタのパソコンで使用できるソフトのうち、いくつかを取り上げてその使い方を説明してみました。Windows95 で動作するソフトには、ほとんどの場合、非常に親切なオンラインヘルプが付いています。通常の場合、そのソフトのウィンドウの [ヘルプ](または [Help]) というメニューを開くことで、オンラインヘルプが起動すると思います。Windows95 でソフトを使っていて何か分からないことがでてきたら、まずヘルプを参照してみてください。きっと問題を解決する手がかりが何か見つかるはずです。